埼玉学園大学・川口短期大学　機関リポジトリ

# コールド・リーディングのタイプ分けについての研究


| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2017-07-28<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En): cold reading, cold reader, Me type, We type<br>作成者: 古澤, 照幸<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/880 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

# コールド・リーディングのタイプ分けについての研究

Study on Type Classification of “Cold Reading”

古　澤　照　幸

FURUSAWA, Teruyuki

占い師やマジシャンが心を読んだり、占ったりし、当たっていると思わせる技術をコールド・リーディングという。このコールド・リーディングには数々の技術があるが、さらにMeタイプ、Weタイプという人のタイプ分けを行うことで心を読もうとする新しい技術がある。この技術について調査を学生に実施し、妥当性を検証した。結果からは一切、この技術は妥当ではないことが分かり、このことについて考察が行われた。

## 1．はじめに

占い師、詐欺師、催眠術師、霊媒師、マジシャンなど相手の心を読んだり、未来に起こることを当てたりして、それを相手に信用させてしまう技術のことをコールド・リーディングという。それを行う人間のことをコールド・リーダーという。霊媒師のような霊能者の場合、サイキック・リーディングと言ったり、マジシャンの場合には、マインド・リーディングと言ったりする場合もあるが、ここではすべてまとめてコールド・リーディングと呼んでおく。

コールド・リーディングが可能となるひとつの理由はストック・スピールである。これは多くの人たちにあてはまる性格、行動、さまざまな状況についての記述や文章を覚えておくことをいう。ストック・スピールは、スピール（誰にでもあてはまる文章）を頭の中にストックしておこうということである。誰にでもあてはまる記述を、相手の人にだけ提示して、「あたっている」という感覚を与える作業がストック・スピールである。心理学の用語としては、バーナム文がこれに等しい。

コールド・リーディングを行うためには、それなりの準備が必要である。Hyman（1981）は「舞台づくり」という言葉を使っている。

コールド・リーダーは、自身の能力について謙虚さを装う必要がある。謙虚であると相手に思わせ、さらに過度な主張を行わないことによって相手の心を開きやすくするのである。そうすれば、自然と相手は自分の情報をコールド・リーダーに提供するようになる。

水晶玉や手相占いのように仕掛けとなるものを使うことも、準備としては効果が高くなる。心理カウンセリングであれば、心理テストの結果を使うというのもそれである。

たとえば、水晶玉が神秘性を示し、心理テストが権威を示すというように頼りになる道

キーワード：コールド・リーディング、コールド・リーダー、Meタイプ、Weタイプ
Key words ：cold reading, cold reader, Me type, We type

具、水戸黄門の印籠と同じような効果がある。また、手相占いであれば、どの手相の線（健康、金銭、恋愛など）を診てもらいたいのかを問うことで、クライアントの問題、または強い関心にすぐに到達することが可能になる。

コールド・リーディングのテクニックであるが、フィッシングというものがある（Dutton,1988）。クライアントがどこか具合が悪そうであれば、「頭かな…」「お腹かな…」などとコールド・リーダーがクライアントに振りながら、反応を確認して、正解にたどりつくやり方である。質問をしているようには見せず、結局はクライアントが知らず知らずのうちに答えてしまい、クライアントは当てられた感覚を持ってしまう。これ以外にも否定文を使う形で行うテクニックもある。たとえば、

「あなたは東北の出身ではないですよね」

という場合、クライアントは「はい、東北出身ではありません」という場合と「はい、そうです東北の出身です」という２通りの回答を行うことが考えられる。いずれにしてもクライアントには当たったという感覚をもたらすのである。

コールド・リーディングには、さらに数多くの技術があるが、石井（2006a）はWeタイプ、Meタイプといって、人を２つのタイプに分けることによってコールド・リーディングの役に立てようとしている。Weタイプは、私たちを基準に考える博愛主義で外向的な傾向を持ち、Meタイプは私を基準に考え、感じ、行動するという内向的な傾向であるという。このタイプ分けはCapasのPタイプ、Eタイプを発展させたものである（石井、2006b）。PタイプのPはPhysicalの頭文字をとったもので、右脳タイプで、外向的、肉体の感覚や感情が情報処理の中心となるとするもので、EタイプのEはEmotionalの頭文字をとったもので、左脳タイプで内向的、論理的な思考が情報処理の中心となるものである。これを石井（2006b）の臨床経験から、作り上げたのがWeタイプ、Meタイプである。

それぞれのタイプの特徴については、表１に示しておいた。Weタイプは先に述べたように外向的な特徴を中心とするものであるが、感情の起伏が激しいという感情の不安定さや

**表1　Meタイプ、Weタイプの主な特徴**

| Meタイプ | Weタイプ |
|---|---|
| 自分をしっかり持っている | 付き合いやすい人だと周囲から思われている |
| 冷静である | 誰とでも友達になれる |
| 主体性がある | 人なつっこいと他人からは言われる |
| 自分で決めたことをしっかりやっていく | 人には好かれやすい |
| まわりからは、利己主義的だと思われている | 自分の意見がない |
| 何を考えているかわからないと言われることがある | 他人に影響されやすい |
| 冷たいと見られている | 主体性に欠けるところがある |
| 気難し屋だと思われている | 感情の起伏が激しい |
| みんなとワイワイやるのが苦手だ | 場の空気が読めない |
| リーダーシップをとる傾向にある | 協調性がある |
| 責任感が強い | 人に説明するときは、詳しい |
| 論理的に物事を考える | 行動しながら理解する |

注）特徴については石井（2006b）より抽出してまとめなおした

主体性のなさ、場の空気が読めないという対人的な感受性の低さなどを特徴としている。Meタイプは内向的な特徴を中心として、冷静さや利己主義を特徴とし、また内向的とは整合しないと考えられるが、リーダーシップをとる傾向も特徴としている。

MeタイプとWeタイプとを見分ける簡単な方法があるという（石井、2006b）。見分けることができれば、それぞれのタイプの性格特徴をすぐに知ることができ、相手の心を読みやすくなったり、相手への対処がよくなったりするというのである。見分け方のポイントに関しては、表２に示しておいた。Meタイプは、左手側が安心するという。左手側に人がいると落ち着く。ということは、自然に相手の右側に立ち位置をとってしまうという。また、右手側が緊張する位置となるが、カバンなどは緊張する側を守る意味で右手側に持ち、ウインクは緊張する右目でするという。さらに、教室では安心する左側を空ける目的で右よりの席に座るという。なぜ、左手側が安心で右手側が緊張するのかということに関しては、なんら理論的な説明はない。

さて、石井（2006b）の関連本は、数十万部の売り上げであるという。ビジネス向けのみではなく、若者向けの恋愛本も関連本にはある。多くの領域や層においてWeタイプ、Meタイプのタイプ分けが使われることになる。このタイプ分けが臨床経験と他の心理や整体のボディ・ワークの専門家との意見交換から作り上げたものであり（石井、2006b）、実証研究から開発したものではないと考えられる点は、多くの人々に使用されていることを考えると、大変な危惧を抱かざるをえない。

そこで、本研究においては、石井（2006b）が示しているWeタイプ、Meタイプの特徴や見分け方を質問項目化し、質問紙調査を実施し、尺度化を試みる。尺度化した上で、心理学において信頼性や妥当性が確認された他のパーソナリティ検査との関係性を検討する。また、タイプの見分け方が妥当であるのかどうかをWeタイプ、Meタイプの尺度との関連性から検討する。

## ２．方　　法

### 2.1　調査対象

埼玉学園大学および岩手大学における授業の受講生を対象に調査を実施した。埼玉学園大学104名（男性57名、女性45名、平均年齢21.30、標準偏差8.28）、岩手大学10名（男性３名、女性７名、平均年齢25.60、標準偏差6.9）にセミナー参加の調査希望の高校生18歳

**表2　Meタイプ、Weタイプの見分け方の主なポイント**

| Meタイプ | Weタイプ |
|---|---|
| 髪の分け目は左である（左の額が出ている） | 髪の分け目は右である（右の額が出ている） |
| カバンは右手側に持つ | カバンは左手側に持つ |
| ウィンクは右目を閉じる | ウィンクは左目を閉じる |
| 教室では右よりの席に座る | 教室では左よりの席に座る |
| 両手を組むと、右の親指が上になる | 両手を組むと、左の親指が上になる |
| 文字を書くときは文字の右肩が上がる傾向にある | 文字を書くときは文字の左肩が上がる傾向にある |
| 右側に重心を置く | 左側に重心を置く |
| | 人と一緒にいるときは相手はいつも自分の右側にいると安心である |

注）見分け方のポイントについては石井（2006b）より抽出してまとめなおした

１名を加え、115名であった。高校生については、回答傾向が大学生の平均的な回答者と類似の傾向にあったため、この１名を特に問題なしとして加えることとした。

### 2.2 質問項目

① Meタイプ・Weタイプ：石井（2006b）におけるMeタイプとWeタイプの特徴を質問項目化した。表１の質問項目を含め、Meタイプ23項目とWeタイプ23項目を作成した（質問項目に関しては、表３を参照のこと）。回答形式は、「１あてはまらない」～「４あてはまる」の４段階のリッカート式尺度である。

② 見分け方：石井（2006b）におけるMeタイプとWeタイプの見分け方を質問項目化した。Meタイプ６項目とWeタイプ５項目を作成した。回答形式は、「１あてはまらない」～「４あてはまる」の４段階のリッカート式尺度である。

③ 仮説項目化の項目：石井（2006b）の仮説（高価なもの（たとえば、企業における業務用ソフト）を購入するとき、Meタイプは「刺激的」と感じるが、Weタイプは「不安」と感じる）から、作成した１項目。内容は以下である。「あなたが、企業のある職場の責任者だとします。相当高価な業務ソフトを業者がすすめてきました。「まだ、他社ではどこも導入していない新しい業務ソフトである」と言われたら、あなたはそれを聞いて「不安」または「刺激的」と感じますか」回答形式は、「1. 不安」～「4. 刺激的」の４段階のリッカート式尺度である。この項目を以下業務ソフト仮設項目と呼ぶ。

④ 外向性関連尺度:Meタイプが内向性、Weタイプが外向性を主特徴とするため、外向性の尺度を実施した。ひとつは、主要５因子性格検査（村上・村上，1997）からの外向性尺度10項目であり、「1. はい」「2. いいえ」で回答する形式である。次にFFPQ-50（藤島・山田・辻，2005）の外向性尺度10項目であり、「1. 全くちがう」～「5. 全くそうだ」の５段階のリッカート式尺度である。最後は、新性格検査（柳井・柏木・国生，1987）の外向性尺度10項目と活動性尺度10項目であり、「1. いいえ」「2. どちらともいえない」「3. はい」の３段階のリッカート式尺度である。

⑤ フェース項目：学生番号、性別、年齢を質問している。

**2.3 調査時期** 2006年７月下旬から８月上旬。

## ３．結果と考察

### 3.1 尺度の構成

**項目反応の偏り**

Meタイプ、Weタイプの特徴項目46項目のうち、「ややあてはまる」と「あてはまる」をあわせて「あてはまる」とし、これらに70％以上の回答者が反応したのは、12項目であった。この中には「人とは調和を大切にする」の88.69%、「子ども好きである」の87.39％というように90％近い反応を示す項目もあった。また、逆に「あてはまらない」「あまりあてはまらない」を「あてはまらない」とし、これに70％以上反応する項目は２項目であった。46項目中14項目が偏りの多い項目ということになる。「あてはまる」12項目については、先に示したストック・スピールということになり、Meタイプであろうが、Weタイプであろうが、誰にでもあてはまるということになる。

**表3　特徴項目の主成分分析の負荷量**

| 項目番号 | 項目内容 | M（Me）か W（We）か | 主成分1 |
|---|---|---|---|
| 40. | 子供好きである | W | 0.67 |
| 8. | 人には好かれやすい | W | 0.67 |
| 33. | 責任感が強い | M | 0.65 |
| 4. | 誰とでも友達になれる | W | 0.62 |
| 44. | 人と関わる職業が向いている | W | 0.61 |
| 30. | 協調性がある | W | 0.61 |
| 5. | 主体性がある | M | 0.61 |
| 29. | 「あなたにしかできない仕事だ」と言われると、やる気が出てくる | M | 0.55 |
| 17. | みんなとワイワイやるのが苦手だ | M | -0.55 |
| 28. | 「あなたのおかげで皆が助かっている」と言われるとやる気になる | W | 0.55 |
| 14. | 主体性に欠けるところがある | W | -0.54 |
| 6. | 人なつっこいと他人からは言われる | W | 0.54 |
| 32. | 人に説明するときは、詳しい | W | 0.52 |
| 31. | リーダーシップをとる傾向にある | M | 0.51 |
| 15. | 気難し屋だと思われている | M | -0.50 |
| 7. | 自分で決めたことをしっかりやっていく | M | 0.50 |
| 1. | 自分をしっかり持っている | M | 0.48 |
| 24. | 人とは調和を大切にする | W | 0.46 |
| 21. | スポーツはひとりでできるものが好きだ | M | -0.46 |
| 34. | 行動しながら理解する | W | 0.43 |
| 20. | 気が利（き）かないと言われることがある | W | -0.42 |
| 13. | 冷たいと見られている | M | -0.41 |
| 49. | メールは必要最小限しか書かない | M | -0.38 |
| 10. | 自分の意見がない | W | -0.38 |
| 26. | 動物は好きである | W | 0.38 |
| 18. | 場の空気が読めない | W | -0.35 |
| 25. | 自分の好きなことについてはおしゃべりな方だ | M | 0.33 |
| 41. | 恋愛に求めるものは刺激である | M | 0.29 |
| 19. | 気に入った少数の人と深く長くつきあう | M | 0.28 |
| 27. | ペットを飼うなら、猫よりも犬がよい | W | 0.28 |
| 12. | 他人に影響されやすい | W | -0.25 |
| 11. | 何を考えているかわからないと言われることがある | M | -0.22 |
| 23. | ひとりでできる趣味が好みだ | M | -0.22 |
| 16. | 感情の起伏（きふく）が激しい | W | -0.22 |
| 3. | 冷静である | M | 0.21 |
| 22. | 人間関係の悩みが多い | W | -0.18 |
| 9. | まわりからは、利己主義的だと思われている | M | -0.14 |
| 38. | 飲み物はコーヒーより紅茶がすき | W | 0.12 |
| 35. | 論理的に物事を考える | M | 0.12 |
| 47. | スペシャリストが向いている | M | 0.09 |
| 36. | 困ったときは、他人からアドバイスが欲しい | W | 0.07 |
| 39. | 人の話の裏を読む | M | 0.07 |
| 42. | ブラックジョークには傷つきやすい | W | 0.03 |
| 37. | 話し方は事務的である | M | 0.01 |
| 43. | 理解してから行動する | M | 0.00 |
| | | 固有値 | 7.81 |

注）下線は負荷量の絶対値．30以上の項目で、期待される方向と逆の負荷量の項目を示す

意図的に考えた「特徴」であろうか、２つのタイプをこれらは弁別することは困難であると考えられる。尺度を作成するときに、偏りが見られる項目は、本来であれば削除したほうがよいが、「特徴」の作者の意図を尊重し、削除をしない方針で臨んだ。

### 特徴項目の主成分分析

ひとつの軸でMeタイプ、Weタイプを弁別できるのかどうかを検討するために主成分分析を行った。実際には、ひとつの主成分に多くの項目において負荷量が高くなるのかどうかをみるのが目的である。まず、相関行列を作成したところ、「付き合いやすい人だと周囲から思われている」と「人には好かれやすい」との間で.70以上の相関係数（r=.74、p<.001）を示した。また、「付き合いやすい人だと周囲から思われている」は「誰とでも友達になれる」との間で.70に近い相関（r=.69、p<.001）を示した。ちなみに「人には好かれやすい」と「誰とでも友達になれる」との間の相関係数は.62（p<.001）であった。このことから、主成分分析においてできるだけ問題を起こさせないために他と相関の最も高い「付き合いやすい人だと周囲から思われている」は削除することにした。

主成分分析を行った結果が表３である。第１主成分のみを抽出し、Meタイプ― Weタイプ軸を想定したのであるが、負荷量の絶対値が、30以上に達した項目は45項目中27項目であった。「40. 子ども好きである」と「8. 人には好かれやすい」が、.67の負荷量を示し、これらはともにWeタイプの項目である。これら以外でも負荷量の高い項目の多くがWeタイプであるので、主成分得点を算出すれば、高い得点の場合、Weタイプ、低い得点の場合Meタイプに被験者を弁別することができよう。しかしながら、「33. 責任感が強い」はMeタイプの項目であるのに正の負荷量であり、負荷量の方向が逆である。こういった負荷量の方向が期待される方向と逆であるのは、負荷量の絶対値が.30以上の27項目のうち、11項目に及ぶ。負荷量の絶対値が.30未満の項目18項目とあわせると実に29項目が意味のない項目ということになる。45項目中では意味のない項目が64.4％となる。

このことは、過半数の項目、つまり石井（2006b）が示した特徴のうち、過半数が意味のないものであることを示すことになる。これでは、石井（2006b）の意図を尊重する形で、ひとつの軸でMeタイプ― Weタイプの軸を設定するのは困難である。そのため、MeタイプやWeタイプに関わるいくつかの因子を想定する形で、以下、因子分析を行う。

### 特徴項目の因子分析

45項目について、最尤法によって因子を抽出し、直接オブリミンによって回転を行った。複数の因子は、MeタイプやWeタイプそれぞれが分割されたものとなると想定されるため、因子間には相関があるものと考えられる。そのため、斜交回転である、オブリミンを使用した。因子の抽出数は４因子から７因子までとし、適合度検定の結果と因子の解釈のしやすさの問題、および石井（2006b）の意図を尊重するため、できるだけ項目が多く残ることを前提とし、６因子の抽出の結果を採用した。しかし、各因子に負荷量の低い項目など（項目番号19、38、43、47、49）の５項目を削除し、40項目で再度６因子として抽出し、回転を行った。

その結果が、表４である。なお、適合度検

**表4　Meタイプ・Weタイプの特徴項目の因子分析（最尤法の後、直接オブリミン法、パターン行列）**

| 項目番号 | 項目内容 | M（Me）または W（We） | 1（We）明朗性 | 2（Me）冷徹 | 3（We）神経質 | 4（We）主体性のなさ | 5（Me）自己中心性 | 6（We）活動性 | 共通性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4. | 誰とでも友達になれる | W | 0.79 | -0.23 | -0.03 | 0.03 | 0.03 | 0.05 | 0.48 |
| 8. | 人には好かれやすい | W | 0.75 | 0.02 | -0.21 | -0.04 | 0.06 | 0.08 | 0.36 |
| 6. | 人なつっこいと他人からは言われる | W | 0.68 | -0.06 | 0.08 | -0.07 | 0.13 | 0.02 | 0.66 |
| 44. | 人と関わる職業が向いている | W | 0.50 | -0.06 | 0.09 | -0.21 | -0.19 | -0.04 | 0.70 |
| 31. | リーダーシップをとる傾向にある | M | 0.47 | 0.41 | 0.02 | -0.24 | -0.16 | -0.24 | 0.46 |
| 40. | 子供好きである | W | 0.44 | -0.01 | -0.03 | -0.05 | -0.37 | 0.09 | 0.26 |
| 21. | スポーツはひとりでできるものが好きだ | M | -0.43 | 0.27 | 0.27 | -0.11 | 0.19 | -0.08 | 0.64 |
| 17. | みんなとワイワイやるのが苦手だ | M | -0.34 | 0.16 | 0.05 | 0.08 | 0.16 | -0.18 | 0.20 |
| 33. | 責任感が強い | M | 0.32 | 0.29 | 0.13 | -0.22 | -0.13 | 0.24 | 0.42 |
| 41. | 恋愛に求めるものは刺激である | M | 0.26 | 0.23 | 0.15 | 0.06 | 0.03 | 0.13 | 0.23 |
| 35. | 論理的に物事を考える | M | -0.18 | 0.65 | 0.03 | -0.18 | -0.08 | 0.08 | 0.54 |
| 39. | 人の話の裏を読む | M | 0.03 | 0.62 | 0.03 | 0.08 | -0.08 | -0.07 | 0.50 |
| 13. | 冷たいと見られている | M | -0.16 | 0.49 | -0.06 | 0.10 | 0.36 | -0.10 | 0.71 |
| 37. | 話し方は事務的である | M | -0.02 | 0.42 | -0.02 | 0.06 | 0.05 | 0.05 | 0.42 |
| 23. | ひとりでできる趣味が好みだ | M | -0.21 | 0.35 | 0.10 | -0.05 | 0.17 | 0.01 | 0.35 |
| 32. | 人に説明するときは、詳しい | W | 0.32 | 0.33 | 0.08 | -0.16 | -0.03 | 0.14 | 0.31 |
| 22. | 人間関係の悩みが多い | W | -0.01 | 0.12 | 0.68 | 0.04 | 0.08 | -0.11 | 0.41 |
| 42. | ブラックジョークには傷つきやすい | W | -0.05 | 0.05 | 0.60 | 0.00 | -0.12 | 0.06 | 0.56 |
| 16. | 感情の起伏（きふく）が激しい | W | -0.06 | 0.15 | 0.52 | -0.01 | 0.12 | -0.13 | 0.44 |
| 3. | 冷静である | M | 0.00 | 0.32 | -0.45 | -0.12 | 0.09 | 0.19 | 0.51 |
| 25. | 自分の好きなことについてはおしゃべりなほうだ | M | 0.22 | 0.00 | 0.40 | -0.17 | 0.00 | 0.11 | 0.24 |
| 18. | 場の空気が読めない | W | -0.11 | -0.26 | 0.39 | 0.13 | 0.36 | 0.14 | 0.37 |
| 36. | 困ったときは、他人からアドバイスが欲しい | W | -0.04 | -0.13 | 0.31 | 0.16 | -0.11 | 0.25 | 0.28 |
| 14. | 主体性に欠けるところがある | W | 0.04 | 0.05 | 0.09 | 0.77 | 0.06 | -0.22 | 0.33 |
| 12. | 他人に影響されやすい | W | 0.15 | -0.02 | 0.18 | 0.71 | 0.06 | 0.08 | 0.20 |
| 10. | 自分の意見がない | W | -0.14 | 0.13 | -0.19 | 0.60 | 0.05 | 0.12 | 0.65 |
| 5. | 主体性がある | M | 0.19 | 0.24 | -0.04 | -0.50 | 0.17 | 0.42 | 0.62 |
| 7. | 自分で決めたことをしっかりやっていく | M | 0.15 | -0.01 | 0.13 | -0.30 | -0.06 | 0.24 | 0.58 |
| 20. | 気が利（き）かないと言われることがある | W | -0.10 | -0.07 | 0.31 | 0.22 | 0.56 | 0.21 | 0.55 |
| 30. | 協調性がある | W | 0.41 | 0.28 | -0.13 | 0.12 | -0.50 | 0.02 | 0.36 |
| 24. | 人とは調和を大切にする | W | 0.21 | 0.11 | 0.12 | 0.13 | -0.46 | 0.14 | 0.48 |
| 11. | 何を考えているかわからないと言われることがある | M | 0.09 | 0.14 | -0.09 | 0.11 | 0.44 | 0.01 | 0.22 |
| 9. | まわりからは、利己主義的だと思われている | M | 0.18 | 0.19 | 0.09 | 0.07 | 0.35 | -0.08 | 0.49 |
| 28. | 「あなたのおかげで皆が助かっている」と言われるとやる気になる | W | 0.00 | 0.13 | 0.23 | 0.05 | -0.42 | 0.57 | 0.23 |
| 26. | 動物は好きである | W | 0.01 | -0.05 | 0.04 | -0.06 | 0.03 | 0.57 | 0.19 |
| 29. | 「あなたにしかできない仕事だ」と言われると、やる気が出てくる | M | 0.06 | 0.29 | 0.21 | 0.10 | -0.40 | 0.50 | 0.37 |
| 1. | 自分をしっかり持っている | M | 0.09 | 0.13 | -0.14 | -0.38 | 0.17 | 0.45 | 0.49 |
| 27. | ペットを飼うなら、猫よりも犬がよい | W | 0.02 | -0.04 | -0.26 | 0.02 | -0.02 | 0.37 | 0.19 |
| 34. | 行動しながら理解する | W | 0.20 | 0.07 | -0.05 | -0.11 | 0.05 | 0.33 | 0.38 |
| 15. | 気難し屋だと思われている | M | -0.26 | 0.30 | 0.07 | -0.05 | 0.24 | -0.31 | 0.43 |
| | 回転後の固有値 | | 5.29 | 2.79 | 2.48 | 3.40 | 3.38 | 3.51 | |
| | α係数（下線の項目を削除して算出） | | 0.82 | 0.62 | 0.65 | 0.73 | 0.46 | 0.59 | |

注）下線は期待される方向と逆の負荷量の項目を示す

定の結果は有意ではなく（$\chi 2$ =604.13、d.f.=555、n.s.）、モデルの適合は棄却されない。第１因子は「4. 誰とでも友達になれる」「8. 人には好かれやすい」などの９項目の負荷量の絶対値が高く、「明朗性」とし、Weタイプを規定する因子と解釈した。第２因子は「35. 論理的に物事を考える」「39. 人の話の裏をよむ」など６項目の負荷量が高く、「冷徹」とし、Meタイプと判断した。第３因子は「22. 人間関係の悩みが多い」「42. ブラックジョークには傷つきやすい」など７項目の負荷量の絶対値が高く、「神経質」とし、Weタイプと判断した。第４因子は「14. 主体性に欠けるところがある」「12. 他人に影響されやすい」など５項目の負荷量の絶対値が高く、「主体性のなさ」とし、Weタイプと判断した。第５因子は「30. 協調性がある」「24. 人とは調和を大切にする」が負の負荷量を持ち、その他絶対値の高い負荷量はあわせて５項目であるが、この因子は「自己中心性」とし、Meタイプと判断した。第６因子は「28.「あなたのおかげで皆が助かっている」と言われるとやる気になる」「26. 動物は好きである」などの７項目が負荷量の絶対値が高く、「活動性」とし、Weタイプと判断した。表５には、因子軸間の相関を示したが、相関は全般的に低く、因子間が独立した傾向にあることが分かる。また、明朗性はWeタイプであり、主体性のなさもWeタイプであるが両者には弱い負の相関がある。正の相関がなければいけないはずであるが、石井（2006b）の仮説構成の間違いではないだろうか。

表５の因子負荷量に下線を施したものがある。たとえば、明朗性の因子は「31. リーダーシップをとる傾向にある」がそれである。この項目は石井（2006b）の考えではMeタイプであり、Weタイプである明朗性因子では負の負荷量になるはずである。このように期待された方向と逆向きの負荷量がいくつかある。これらは尺度を作成する上で削除しなければならない項目であろう。各尺度は今述べた項目を削除の上、因子のタイプとは異なる項目については反転させて、合計したものを尺度得点とする。各尺度の信頼性（α）を算出したのが表の最下段である。

**表5　因子軸間の相関(r)**

| 因子 | 明朗性 | 冷徹 | 神経質 | 主体性のなさ | 自己中心性 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 明朗性 | 1.00 | | | | |
| 2. 冷徹 | 0.07 | 1.00 | | | |
| 3. 神経質 | -0.01 | 0.06 | 1.00 | | |
| 4. 主体性のなさ | -0.24 | -0.13 | 0.12 | 1.00 | |
| 5. 自己中心性 | -0.28 | 0.14 | 0.05 | 0.13 | 1.00 |
| 6. 活動性 | 0.32 | 0.04 | 0.06 | -0.14 | -0.18 |

### 見分け方項目の主成分分析

見分け方のポイントに関する項目について、ひとつの主成分で成り立つかどうかの検討のため主成分分析を行った(表６)。負荷量をみると、「53. カバンはふだん右手側に持つ」「57. 右側に重心を置く」などの負荷量が高く、正の方向がMeタイプ、負の方向がWeタイプになることが分かる。しかしながら、負荷量の絶対値が.30以上は12項目中６項目しかない。基準としては低くなるが、負荷量が、.25の「55. 両手を組むと、右の親指が上になる」までを尺度項目として、計７項目の合計を尺度得点とする。信頼性係数（α）は、0.43と低い値である。ここで、得点は高ければ高いほど、Meタイプとなり、低いほどWeタイプとなる。

**表6　見分け方の主なポイント項目の主成分分析**

| 項目番号 | 項目内容 | M（Me）か W（We） | 主成分1 |
|---|---|---|---|
| 53. | カバンはふだん右手側に持つ | M | 0.63 |
| 57. | 右側に重心を置く | M | 0.61 |
| 45. | 怪我をしやすいのは体の右側である | M | 0.61 |
| 48. | 教室では左よりの席に座る | W | -0.46 |
| 46. | ウィンクは左目を閉じる | W | -0.41 |
| 50. | 文字を書くときは文字の左肩が上がる傾向にある | W | -0.36 |
| 55. | 両手を組むと、右の親指が上になる | M | 0.25 |
| 51. | 髪の分け目は左である（左の額が出ている） | M | -0.23 |
| 54. | 人と一緒にいるとき、相手はいつも自分の右側にいると安心だ | W | 0.17 |
| 56. | 人と一緒にいるとき、私は相手の右側にいるときが多い | M | -0.06 |
| 52. | 派手な服装を好む | W | 0.00 |
| | 固有値 | | 1.80 |
| | α係数（項目53から55まで7項目） | | 0.43 |

### 3.2　尺度間の相関

#### 特徴尺度と外向性関連尺度との相関

6つのMeタイプとWeタイプの特徴に関する尺度と外向性関連の尺度との相関行列を表7に示した。なお、FFPQ-50については欠損地が多く、解析から除外した。

明朗性が各外向性との相関が高い。主要性格検査の外向性とは、.70(r<.001)、新性格検査の外向性とは、.83(r<.001）の各相関係数を示している。外向性関連尺度は、Weタイプの活動性と低めの相関を示している。Meタイプの自己中心性は負の相関であり問題はないが、Weタイプの主体性なしは主要性格検査の外向性と-.39（r<.001）など負の相関を示し、やはり仮説構成としては無理がある。

**表7　特徴尺度と外向性関連尺度との相関(r)**

| 尺度 | 主要性格外向性 | 新性格外向性 | 新性格活動性 |
|---|---|---|---|
| 明朗性 W | 0.70** | 0.83** | 0.64** |
| 冷徹 M | 0.01 | 0.01 | 0.17 |
| 神経質 W | -0.01 | -0.17 | -0.10 |
| 主体性無 W | -0.39** | -0.48** | -0.56** |
| 自己中 M | -0.25* | -0.32* | -0.20 |
| 活動性 W | 0.27* | 0.28* | 0.28* |

**p<.01　*p<.05

#### 見分け方尺度と特徴尺度との相関

さて、見分け方のポイントによって、Meタイプであるか、Weタイプであるのかがすぐに分からなければいけない。そうであれば、見分け方の尺度と特徴の尺度との間になんらかの相関がなければいけない。

たとえば、見分け方の尺度は先に述べたように高い得点であれば、Meタイプの傾向となり、低ければWeタイプの傾向ありということになる。したがって、明朗性はWeタイプであるので、負の相関係数を示さなければならず、冷徹はMeタイプであるので正の相関を示す必要がある。そうでなければ、見分け方の尺度そのものは役に立たなくなる。

さて、相関係数は表8に示した。見分け方尺度と6つの特徴尺度との相関係数はいずれも無相関である。見分け方のポイントによって、Meタイプ、Weタイプの特徴を知ることは不可能であると言えよう。すなわち、見分け方のポイントによって、MeタイプであるかWeタイプであるのかを見分けることがで

表8　見分け方尺度と特徴尺度との相関（r）

| | 明朗性W | 冷徹M | 神経質W | 主体無W | 自己中M | 活動性W |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 見分け方M | 0.03 | -0.13 | -0.08 | -0.10 | -0.02 | 0.06 |

注）相関係数はすべて有意ではない

表9　業務ソフトの購入項目と見分け方尺度、特徴尺度との相関（r）

| 尺度 | 見分け方M | 明朗性W | 冷徹M | 神経質W | 主体無W | 自己中M | 活動性W |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 業務ソフト | 0.12 | 0.04 | 0.14 | 0.12 | -0.26＊ | 0.24＊ | 0.09 |

＊p<.05

きないということである。

### 業務ソフト仮設項目との相関

業務ソフト仮設項目は高い得点を示すほどソフト購入に刺激性を感じ、得点が低いほど不安を感じる項目である。刺激的だと感じるほど、Meタイプであり、不安を感じるほどWeタイプであるというのが仮説である。

表９に業務ソフト仮設項目と見分け方尺度、６つの特徴尺度との相関を示した。ここでは、見分け方尺度とは正の相関を示せばよいが、0.12(n.s.）となり、無相関である。特徴尺度に関してはWeタイプの尺度は負の相関に、Meタイプの尺度は正の相関であればよい。ここでは主体性なしと自己中心性がそのとおりとなっているが、他はみな無相関である。有意な相関の２尺度も絶対値は小さなものであり、仮説が検証されたとは言えない。

## 総合的考察

コールド・リーディングを行うときに、人の心を読む道具としてMeタイプ、Weタイプのタイプ分けの道具を石井（2006b）は作り上げたが、この道具が妥当なものかどうかを本研究において、調査データをもとにして検討した。

まず、項目反応に偏りがあるものが46項目中14項目あった。全体の３割程度になる。このうち、12項目は「あてはまる」方への偏りであり、これはMeタイプであろうが、Weタイプであろうが、誰にでもあてはまる項目ということになる。石井（2006b）の読者自身も自分自身にあてはまる内容だと思うことであろう。

特徴項目の主成分分析では、45項目中29項目が意味のない項目とみなされた。全体の３分の２になる。MeタイプとWeタイプの軸をひとつ設定することに無理があることになる。実際には、期待される負荷量と逆の方向に負荷量がある項目が11項目もあり、Meタイプ、Weタイプの構成概念そのものに無理があるように思われる。

その後、因子分析を行った。Meタイプ、Weタイプをそれぞれ示すと考えられる６つの因子を抽出した。そこでも期待される方向とは異なる負荷量をもつ項目が見出されたため、それらを削除して尺度構成を行った。因子軸間の相関に関してもWeタイプを示す明朗性と同じくWeタイプを示す主体性のなさとは負の相関を示し、整合性のなさを示した。ただし、明朗性は他の外向性関連尺度との相関が高く、石井（2006b）の想定したWeタイプは外向性を特徴とするということは保障できたと言えよう。

見分け方のポイントについても主成分分析を行った。負荷量の絶対値が、30以上の項目は12項目中６項目だけであり、とてもこれらの項目、すなわち見分けるポイントがMeタイプとWeタイプを弁別できるものとは考えにくい。６項目に負荷量が、.25の項目も加え７項目で見分け方尺度を構成した。α信頼性係数が0.43と低く、いずれにしても７項目に内的整合性はないのだが、これをひとつの尺度として、Meタイプ、Weタイプの特徴尺度との相関を求めた。６つの尺度とはすべて無相関であり、見分けるポイントがMeタイプ、Weタイプを見分けられないという結果となった。さらに業務ソフト仮説項目と見分け方尺度、特徴尺度との相関についても主体性なしと活動性とに低い相関が見られていただけであった。

本研究結果から、Meタイプ、Weタイプの構成概念そのものに無理があると言える。仮に構成概念に妥当性があるとしたとしても、見分け方のポイントは完全に妥当性なし、つまり効力なしと言わざるをえない。現状では、Meタイプ、Weタイプの特徴や見分け方のポイントは使用しないほうがよいであろう。Hyman（1981）の指摘するように、クライアントだけではなく、コールド・リーダーが自分自身の考えはよくあたると錯覚してしまう現象が、Meタイプ、Weタイプの作成者にも生起しているように思われる。今後、使用を検討する場合にはたんなる思いつきではなく、客観的なデータをとり、信頼性や妥当性を検証する形で進めていくことが期待される。

## 参考文献


Dutton, D. (1988) The Cold Reading Technique *Experientia* 44: 326-32

藤島　寛・山田　尚子・辻　平治郎（2005）５因子性格検査短縮版（FFPQ-50）の作成　パーソナリティ研究　13（２）　231～241

Hyman, R. (1981) Cold reading: How to convince strangers you know all about them. In Paranormal borderlands of science. K. Frazier, ed. Pp. 79–96. Buffalo: Prometheus

石井裕之（2006a）「コミュニケーションのための催眠誘導 「何となく」が行動を左右する」 光文社

石井裕之（2006ｂ）「ビジネス･コールドリーディング　相手の潜在意識から説き伏せる！」日本実業出版社

村上　宣寛・村上　千恵子（1997）主要５因子性格検査の尺度構成　性格心理学研究 6（１）29～39

柳井　晴夫・柏木　繁男・国生　理枝子（1987）心理学研究　58（３）158～165